

<関係法令等>

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領等

<大泉南小学校教育目標>

児童一人一人の知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、豊かな人間性を培い、主体的に生きる児童の育成を目指し、次の学校目標を設定する。
 ○よく考える子 ○思いやりがある子 ○たくましい子

<願い>

- ・児童の願い
- ・保護者の願い
- ・地域社会の願い

各教科の指導の重点

- 【国語】自分の思いや考えを表現し、伝え合う力を伸ばすための指導を工夫する。
- 【社会】社会から学ぶ体験的な学習と問題解決的な学習指導の工夫をする。
- 【算数】日常の事象にも目を向け、表現する能力を育てるとともに、具体的な操作を取り入れながら指導の工夫を図る。
- 【理科】自然事象を通して自分なりの考えをもたせ、問題解決の能力を養い自然を愛する心情を育てる。
- 【生活】自然や社会との触れ合いの中で、活動・体験をさせることで自立への基礎を養う。
- 【音楽】音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする力を育成する。
- 【図工】つくりだす喜びを味わわせるとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成する。
- 【家庭】日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能の定着と個に応じた指導の工夫を図る。
- 【体育】運動の特性に触れた楽しさを味わわせるとともに、工夫して運動する態度を育て、基礎的な体力の向上を図る。

<学校経営方針>

「笑顔あふれる大南 ～自分もよく 相手もよく みんなもよく～」を合い言葉に、知・徳・体の調和の取れた児童の育成を重視する。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むことが教職員の使命であることを自覚し、研究・研修に励む。

道徳教育の指導の重点

- ・特別の教科道徳「生命尊重」「思いやり」を重点とし、自他を尊重し、よりよく生きることについて考えを深める。
- ・体験的な活動を中心に、道徳的実践力を身に付けさせる。
- ・人間関係を深め、思いやりのある児童を育てる。

特別活動の指導の重点

- ・自主性と自発性を大切にした体験的な活動を重視し、個性の伸長を図る。
- ・好ましい人間関係を育てる交流活動を盛んにし、同学年や異学年との児童相互の心の結び付きを深めさせる。

外国語(活動)の指導の重点

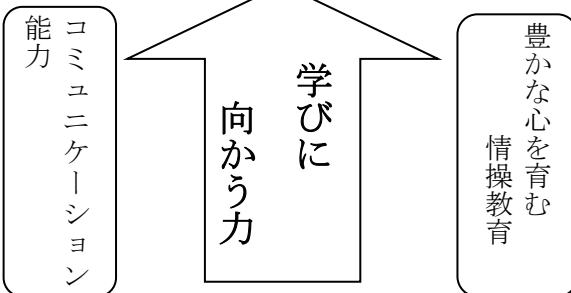
- ・外国語(活動)を通して、楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ・外国語の音声やリズムなどに慣れ親しませるとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さに気付かせる。
- ・外国語科(5・6年)外国語活動(3・4年)の実施に伴いALTを活用し、3・4年の外国語活動の指導も行う。

本校における「確かな学力」

大泉南小学校では学習指導要領に示された資質・能力を重視し、次の力を育成する。

課題発見能力 問題解決能力
 思考力 判断力 表現力 知識・技能

資質・能力



基本的な生活習慣・基本的な学習習慣

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・児童の興味・関心に基づく課題意識を重視し、各教科の学習と関連を図りながら、主体的、創造的に取り組み、よりよく問題を解決する態度や判断力を育てる。
- ・地域にある白子川源流、旭出学園、特別支援学校、商店、小泉牧場、農家、牧野記念庭園などの教育資源を積極的に活用した体験的な学習や人権教育を行い、協調的姿勢や思いやりの心など豊かな社会性を育む。
- ・調べ学習や発表を行うことを通して、よりよく問題を解決する態度を育てる。

キャリア教育の指導の重点

- ・児童一人一人の能力や適性を把握し、自己の将来に希望をもてるように指導・支援する。
- ・学校生活の中で、自己のよさや役割について意識させ、児童の進学への夢や期待をもたせる。
- ・「練パパ」と連携した5・6年における「生き方学習」の充実を図る。
- ・「キャリア・パスポート」を作成することにより、学年もしくは入学から卒業まで、中・長期的に振り返り、将来への展望や見通しをもたせる。

生活指導の重点

- ・集団生活の規律を理解させ、秩序ある生活態度を育てる。
- ・日常生活に必要な基本的行動様式を身に付けさせる。
- ・教育相談(ひまわり相談室)の機能を重視して、一人一人の児童が自己実現できるよう充実した支援に努める。
- ・ケース会議・校内委員会を積極的に行い、個に応じた適切な支援を組織的に行う。

本校の授業改善に向けた視点と手だて

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点	特別支援教育の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導・習熟度別指導を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・児童一人一人の興味・関心を大切に授業を工夫し、分かる、できる喜びを味わわせる指導を目指す。 ・タブレット PC の利用を工夫し、ジャムボード等を活用した授業を展開することで児童相互の認め合い、高め合いを促進する。 ・ICT を活用して総合的な学習の時間や体験的な学習指導の充実を図る。 ・地域との関わりを大切に学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数では全学年において習熟度別指導を実施する。 ・理科、生活科、総合的な学習の時間などで農園を活用する。 ・年2回、読書旬間を実施する。金曜の朝読書を実施する。「大南おすすめの本リスト」を基に読書指導を進める。 ・行事に関わる適正な授業時数の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究の主題「あたたかな心と豊かな人間関係をはぐくむ道徳・特別活動」に向けて、道徳・特活(学級会)の充実を図った授業研究や、指導の工夫をする。 ・全教員の指導力向上を目指し、校内 OJT・模範授業や研究授業を実施する。 ・学校訪問・研究授業など、中学校との連携を図った取組を進める。 ・ALTとの共通理解の下、連携を図った外国語(活動)を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童 <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の児童対象に意識調査を行い、授業改善に活用する。 教師 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を行い、成果と課題を振り返り、授業改善、教育課程編成に活用する。 外部 <ul style="list-style-type: none"> ・年1回保護者・児童・教職員アンケート等による学校評価を行い、それを基に学校関係者評価会を実施し、学校改善に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業を公開の場とし、定期的に学校・児童の様子を見てもらい、適切に学校評価を行うことで学校の信頼度を高めていく。 ・道徳授業地区公開講座を実施し、講演会では、保護者・地域の方と意見交換を行う。 ・総合的な学習の時間、生活科などにおいてゲストティーチャーを招き、連携を図る。 ・朝の時間を活用し、地域の方の読み聞かせの会を開き、読書活動の充実を図る。 ・地域人材や自然環境を活用した学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区別協議会で、大泉第二中・大泉第二小との小中一貫グループ研究において教科等の10分科会に分かれて小中9年間を通じた系統的指導法の研究を進める。 ・三校合同による、一斉あいつ運動を実施し、地域力の向上を目指す。 ・小中一貫教育実践校の実践例を活用する。 ・部活動の見学、交流、生徒会活動の説明会、教科の乗り入れ授業等々の工夫を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における発達に課題のある児童に対しての理解を深め、適切な指導の工夫を学ぶとともに、ICT 機器を活用することにより視覚支援の充実等、環境を整える。 ・地域の特別支援学校と交流し、特別支援教育への理解と充実を図る。

授業改善策の検証方法

学校評価(地域、保護者、児童)、自己評価(教員)による検証を行う。東京ベーシックドリルを活用した学力調査を行う。(算数)
 児童の授業中の発言、行動の観察、ノート、プリント、学習カード類の記述、作品や実技の様子、ワークテストの結果等による検証を行う。